

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

平成 28 年熊本地震 被災者支援 活動中間報告書



4 月 20 日～10 月 31 日までの報告



益城郡御船町

御船町は熊本市から16kmほど東南に位置する町。人口は約1万8千人、面積約99km²、10の小学校区で構成。高齢化率30.9%で、山間部では、60～70%を越す集落もあります。

日本で最初に肉食恐竜の化石が発見された町でもあり、「恐竜博物館」には年間17万人もの観光客が訪れます。

山間部では米や野菜づくりなどの農家が多い一方、小中高大学などの教育機関が充実しているため、熊本市のベッドタウンとして、若い世代も多く住んでいます。

震度6強。死者2名、重傷者4名

全壊842世帯、半壊1,535世帯、一部損壊3,903世帯の家屋被害

避難勧告139世帯(347名)、避難指示108世帯(308名)

町内40カ所以上の避難所にピーク時で約6,000人の町民が避難

町内に仮設住宅21箇所・約425戸が建設予定

みなし仮設*には約300戸が入居予定

(2016年9月14日現在)



イメージキャラクター

ふねまるくん

*みなし仮設：民間住宅を国や自治体が借り上げて、仮設住宅の代わりとして被災者に提供したり、公営住宅や雇用促進住宅、被災者が自力で借りた賃貸住宅も仮設住宅とみなしたりした住宅を総称して「みなし仮設」とし、家賃などを国が負担している。



活動記録

- 2016 年
- 4/15 浦野・松永が現地入り（福岡経由で大津町へ）
 - 4/16 浦野・松永が大津町のホテルで震度 6 強の被災、一旦名古屋へ帰還
 - 4/16～17 名古屋にて街頭募金活動
 - 4/20 浦野・松永はボランティア 1 名と再び現地入り
 - 4/21 大分県竹田市、熊本県西原村、御船町を経由して福島市西区「光楽寺」へ到着（5 月 1 日まで滞在）
 - 4/23 西原村にて災害ボランティアセンター運営支援・JVOAD 火の国会議（以降毎日開催）・「RSY 避難所チーム」結成・御船町にて活動開始、第 1 回街頭募金（名古屋）
 - 4/23～24 名古屋にて街頭募金活動
 - 4/25 御船町長・総務課・福祉課と面談、福祉課「救護班」のミーティング参加、各避難所にて足湯ボランティア開始
 - 4/29 御船町災害ボランティアセンター開設、RSY 避難所チームを『ニーズ班・福祉チーム』として位置づけ
 - 4/29～5/1 名古屋にて街頭募金活動
 - 5/1 田代東部公民館にて「ミニ昼食会」、御船中学校にて「子どもの遊び場」、小坂小避難所にて「足湯ボランティア」開催、福祉避難所の環境改善実施
 - 5/2～4 玉虫住宅南公民館にて「ミニ昼食会」、御船小中学校避難所などで「子どもの遊び場」、
「足湯ボランティア」開催、光楽寺にて「炊き出し」開催
 - 5/3～5 名古屋にて街頭募金活動
 - 5/6 小坂小避難所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
 - 5/8 JVOAD 熊本市内 180 箇所の避難所を 21 箇所に集約、熊本市総合体育館での受入支援、
「母の日プロジェクト」実施
 - 5/9 地元ボランティア団体らと御船中で「サロン活動」開始
 - 5/14～15 玉虫住宅南公民館、田代東部公民館にて、日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
 - 5/16 田代東部公民館にて「ミニ昼食会」の開催
 - 5/21 熊本市民活動センターあいぽーとにて「足湯講習会」実施
 - 5/21～22 青雲市場にて「炊き出しバイキング&カフェ」開催、ふれあい広場にて「LUSH ハンドマッサージ」開催（以降各避難所で毎週末開催）
 - 5/23 御船中にて「手洗いチェック・布団干し」実施
 - 5/29 あいぽーとにて「熊本地震災害支援説明会」開催（以降、地元ボランティアの足湯ボランティア、サロン活動などをサポート）
 - 6/1 南田代集会所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
 - 6/6～10 御船町スポーツセンターへの避難所集約受入支援、「雑巾づくりの会」開催
 - 6/8 熊本市南区火の君文化センターにて「布団干しプロジェクト」開催
 - 6/8 名古屋にて街頭募金活動
 - 6/14～15 スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催
 - 6/16～17 スポーツセンター、南田代集会所、福祉避難所にて「胡弓演奏会」開催
 - 6/18 応急仮設住宅入居者説明会（第一次募集）にて「仮設の住まい方」説明
 - 6/23 大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業（初回）

- 6/26 スポーツセンターにて「足湯ボランティア」実施
- 6/27 高木・木倉・旧七滝中仮設住宅へ「あったか味噌汁プロジェクト」のお椀&箸セットお届けスタート
- 6/28 スポーツセンター、玉虫住宅南公民館にて「サロン活動」実施
- 7/5 RSY 御船事務所「かたらんな交流館」オープン
- 7/7 大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業
- 7/14 応急仮設住宅入居者説明会（第二次募集／七滝）にて「仮設の住まい方」説明、スポーツセンターメモリアルイベント参加
- 7/19 スポーツセンターにて「お抹茶&手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と合同）
- 7/21 応急仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第1）
- 7/23 「くまもと災害ボランティアネットワーク設立実行委員会」シンポジウム参加
- 7/24 足湯（玉虫住宅南組団地）実施。12名が参加（神戸大学足湯隊と連携）
- 7/29 スポーツセンターにて「お抹茶&手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と連携）
- 7/29 大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業
- 8/3～4 大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業
- 8/4 町主催「御船町第1回被災者支援担当者会議」参加
- 8/8～10 旧七滝・高木談話室にて「穴水・御船交流会」開催。総勢約20名参加。陣・木倉仮設住宅、商店街、スポーツセンターなどで手作り手拭タオル「ホットちゃん」を配布。御船町社協にて「穴水&田代・木倉地区社協交流勉強会」開催。24名参加（穴水町社協、穴水町ボランティア連絡協議会と連携）
- 8/11 旧七滝仮設談話室にて「RSY カフェ」開催。4名参加（「はり灸レンジャー」と連携）
- 8/13 かたらんな交流館にて「陶器市&RSY カフェ」開催。6名参加
- 8/14 スポーツセンター主催「熊本地震メモリアルイベント」参加
- 8/19 障がい者福祉施設「第二明星学園田代西部センター」にて「音楽会」開催（「NPO 法人夢のはな奏であい」と連携）。50名参加
- 8/19～21 「RSY 熊本地震夏祭り応援交流ボランティアバス」運行。スポーツセンターにて「真夏の夏祭り」支援、南田代公民館にて「住民夏祭り交流会」開催、町内観光の後名古屋へ出発。祭りには総勢約400名が参加
- 8/20 仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第2、高木第2、下高野）
- 8/26～27 大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業
- 8/27 かたらんな交流館にて「陶器市&RSY カフェ」開催。約20名参加
- 9/1 仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（東小坂、田代東部、七滝、玉虫）
- 9/6 仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（甘木）
- 9/8 旧七滝中談話室にて「福島・御船交流会」開催（桜の聖母短期大学と合同）8名参加
- 9/10 大口町倉庫にて味噌汁プロジェクトパック化作業
- 9/9～12 スポーツセンター、高木・旧七滝・ボランティアセンターにて「住宅再建に関する相談会」開催（（株）サイドサポートサービス「おうちの相談屋本舗」と合同）。総勢約20名参加
- 9/16 町主催「御船町第2回被災者支援担当者会議」参加、仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（滝川）

- 9/17 かたらんな交流館にて「陶器市&RSY カフェ」開催。約 60 名が参加
- 9/20 大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業
- 9/22 仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（南木倉）
- 9/25 御船町復興まつり「感動祭」準備支援（トヨタボランティアセンターと連携）
- 9/27 木倉公民館にて「陶器市&RSY カフェ」開催。約 50 名参加
- 9/28 ふれあい第 1・2 談話室にて「あったか味噌汁プロジェクト昼食会」開催。約 30 名参加。町主催「第 1 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加。
- 10/2 ふれあい第 1・2 談話室にて「なごやカフェ」開催。（名古屋学院大学と連携）。約 20 名参加、御船町復興まつり「感動祭」準備支援（TOYOYA ボランティアセンターと連携）
- 10/4 仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（空室分）
- 10/8 高木仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加
- 10/10 大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業
- 10/11 御船町社協「地域支えあいセンター開所式」参加
- 10/13 町主催「御船町第 3 回被災者支援担当者会議」「第 2 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加、応急仮設入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（西木倉）
- 10/15 御船町復興まつり「感動祭」準備支援（大分大学学生有志と連携）
- 10/16 御船町復興まつり「感動祭」運営手伝い
- 10/17 町主催「復興計画住民座談会」参加（田代東部公民館）
- 10/19 スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催。260 食提供（災害ボランティアネットと連携）
- 10/21 町主催「第 3 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加
- 10/22～24 今城、小坂、ふれあい第 1・2、高木、南木倉仮設にて「足湯&RSY カフェ開催」40 名参加。
- 10/23 大口町倉庫にてうるうるパックパック化作業
- 10/26 ふれあい第 1 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加
- 10/28 町主催「御船町第 4 回被災者支援担当者会議」、ふれあい第 2 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加
- 10/29 木倉校区見守りネットワーク推進会議「災害後の生活支援についての勉強会」講演・WS の企画運営
- 10/30 小坂・旧七滝仮設にて「下駄箱づくり&RSY カフェ」を開催（プロジェクト九州と連携）



「来ないつもりだったばってん、あんたに会えたけん、よかったと」
 「大勢で食べるとおいしかでしょ」（あったか味噌汁プロジェクト昼食会にて）

●避難所支援 RSY 避難所チーム（避難所環境整備）

命と尊厳を守れる最低限度の避難所環境を整えることを目的に、御船町や熊本市からの要請を受け「避難所チーム」を結成しました。RSY と繋がりのある看護や福祉の専門職の皆さんに協力頂き、トイレ・寝床・食事の改善、福祉避難所(スペース)の整備を行いました。特に避難所統合の際には、乳幼児室、管理調理場、女性用物干しスペース、学習スペース、食堂などの機能の必要性も提案し、受け入れを手伝いました。



足湯ボランティア

どの災害でも直後から復興期まで息長く喜ばれる足湯ボランティア。御船町や熊本市内の避難所でも実施中です。神戸大学、名古屋学院大学の学生や、東日本大震災で生まれた「どこでも足湯隊」の皆さんが、被災された方々の足と心を温め、笑顔や涙、喜びの声を引き出しています。この活動は、地元大分大学やボランティア・NPO 団体らに引き継がれ、継続されています。



サロン活動支援

「日中することがない」「避難所に来てから体の動きが悪くなった」というお年寄りの声を聞き、震災前から地元でサロンを開催していたボランティアの皆さんと一緒に活動を始めました。この活動は避難所が統合されるまで、週に2回～3回のペースで続けられ、被災者同士、被災者とボランティアを繋ぐ交流の場・より所となりました。LUSH ジャパンのハンドマッサージや音つむぎネットの音楽会とのコラボレーションは喜ばれました。



子ども支援

学校休校や激しい揺れ、避難所生活のストレスを抱えた子ども達のために、遊び場を開催しています。地元の若者で結成した「笑顔の熊本会」や三重県からの個人ボランティアの皆さんらが、けん玉やボール遊びなどの楽しい企画を開催しました。仲良くなるにつれて「抱っこ」や「おんぶ」をせがむ姿も見られ、子どもの表情も明るくなってきました。現在は、日本イスラエド・サポート・プログラム（JISP）の皆さんに引継ぎ、学習支援も含めた支援を継続的に行っています。



避難所の自主運営・役割づくり・閉鎖サポート

6月上旬、御船町スポーツセンターへの避難所統合を機に、町からの依頼により、熊本 YMCA（施設管理者）や熊本大学の方々と自主運営に関するルールづくりを行いました。約 200 世帯が集る避難所を 6 つの班に分、「班長」「食事係」「ゴミ係」「清掃係」「物資・健康係」と担当を決め、住民自身が運営していけるよう、避難所のレイアウト、係決めのワークショップなどのお手伝いをしました。また、NPO 法人災害ボランティアネット九州支部「てらもん」さんらとの連携のもと、集いの場や役割づくりのために、サロンや物づくりのプログラムも実施しました。10 月 31 日の閉鎖まで、在宅や仮設住宅移行時にお手伝いや相談が必要な方については、町や熊本 YMCA と連携し、個別支援をお手伝いしました。



●集落支援 陶器市 & RSY カフェの開催（木倉地区）

愛知県瀬戸市の「陶磁器卸業協同組合」様からご提供頂いた瀬戸物で陶器市を開催しています。地震で割れてしまった食器の調達はもちろんのこと、近所の方との再会や、ゆっくり語り合える場としても活用されています。陶器は1つ10円程度で販売し、気兼ねなく気に入ったものを持ち帰れるよう配慮し、売り上げは全て御船町社協に寄付しています。買い物をする楽しさや気分転換にも繋がっているようで、大変喜ばれています。



サロン・食事会の開催（南田代地区）

南田代地区は、山間部で家屋倒壊も少なく、外部からの支援はあまり入っていない地域でした。しかし、家屋内や農地被害はひどく、「支援から取り残されているように感じる」という声も聞かれています。そこで、RSYと繋がりのある音つむぎネットやNPO法人災害ボランティアネットの皆さんとサロンや食事会をきっかけに交流を深めてきました。「今度はいつ来ると？」と住民の方々も次の新たな出会いや再会を楽しみにしています。



車座トーク「これからの生活再建を考えるミニ相談会」

今後の生活再建に向けて不安を抱える住民声をもとに、日本災害復興学会の協力のもと「車座トーク」を開催しました。過去の災害を事例から、応急危険度判定や被災証明、今後受けられる支援制度などについて解説頂き不安軽減に繋がりました。また、2004年新潟県中越地震で家屋全壊、田んぼの被害を受けた田麦山の渡辺裕伸さんをゲストに迎え、応急仮設住宅の住まい方や生活再建に向けた取り組みの事例を教えてくださいました。計5回・約100名が参加しました。

●応急仮設住宅支援 仮設での暮らし方の伝授

応急仮設住宅での暮らしに大きな不安を抱える被災者に向け、町主催の仮設住宅入居者説明会で、「仮設の住まい方、暮らし方」を紹介。過去の災害の事例を元に、狭い空間を有効活用したレイアウトや収納の選び方などを具体的に伝授。新潟県中越地震や東日本大震災の被災者からの「引きこもらずになるべく外に出ること」「近所づきあいを大切に」というメッセージを伝え、熱心にうなづく姿が印象的でした。2016年11月中旬までに、21箇所・425戸の仮設住宅が完成予定です。



あったか味噌汁プロジェクト

応急仮設住宅にお住まいの皆さんに、真心がいっぱいあった味噌汁椀と箸のセットを届ける「あったか味噌汁プロジェクト」。仮設住宅での孤独死や健康被害、熊本地震の風化防止を目的としています。受け取った住民からは、「昨日さっそくこれで味噌汁を食べました」「遠くから気にかけてくれることが本当に嬉しい」と、満面の笑顔と共に喜びの声が聞かれています。お椀とお箸は全て全国からの寄付によるもので、ラッピング作業は愛知のボランティアさんが担ってくれました。集会場や談話室が開放される時期を見計らって、熊本の郷土料理「だご汁」昼食会を開催。プレゼントしたお椀とお箸を家から持参して、みんなで楽しく調理しました。「今度部屋に遊びにいきたい!」と、次の約束をする方もいて、新たな人の関わりを育くむきっかけにもなっています。目標の1,500セットは既に集っており、これまでに906人の方にお一人ずつ手渡しできました。



集会場・談話室の整備

町の仮設住宅には、1 箇所の集会場（50 戸に 1 つ）と 10 箇所の談話室（20 戸に 1 つ）が順次建設されています。ただし、災害救助法で提供されるのは建物のみ。資材は町が自前で用意しなくてはなりません。そこで、RSY への寄付金や生活協同組合連合会アイチョイス様より、テーブル・椅子・お茶のみセット、簡易調理セット、モノづくりのための工具などを提供。靴箱づくりや食事会など、住民が集える場づくりプログラムのために使われています。



足湯 & RSY カフェ

仮設住宅入居後も根強い人気の足湯。東日本大震災でも活躍した、「どこでも足湯隊」や「神戸大学足湯」などが、住民の足と心を温めています。震災直後の様子や、今の健康状態、家族や隣近所のことなど、どんどん言葉が溢れ出てきます。行政や専門家の対応が必要なケースはすぐに繋ぎ、そうでなければただひたすら、皆さんの話に耳を傾けます。「久しぶりに話せてすっきりしたたい」「また来てね」など、次を楽しみに待つ言葉が、随所で聞かれています。



郷土料理・名物おやつ交流会

福島や名古屋の学生さんたちが、地元の食べ物を一緒に作って食べる交流会を開催しています。名古屋からは「ういろう」、福島からは「こづゆ（汁物）」というレシピと共に紹介。住民の皆さんも興味心身で一緒に作って下さいました。学生さんたちの中には、「今度は熊本の料理を教えてください」と次の約束を取り付ける人も。一つの出会いが、土地への興味と互いへの関わりをより一層深めてくれています。

建築士による住宅修繕相談会

過去の災害では、家主が家の解体や修繕などについて正しい判断ができず、解体までする必要がない家屋を壊したり、悪徳業者にだまされて、多額の費用を請求されるなどのトラブルが数多くありました。(株)サイドサポートサービス「うちの相談屋本舗」主宰の中原弘之氏を招き、4箇所で開催すると共に、実際に建物を見てアドバイスをする個別訪問も行いました。住民からは「再建に向けてすべきことがはっきりした」と、安心した表情が見られました。



復興祭りへの支援

町民が主体となり、復興祭り「感動祭」が開催されました。RSYは、事前準備や広報などを支援。当日は各地から2,000名を越す人々が来町し、御船川河川敷にて、よさこいを披露するなど、大いに盛り上がりました。



地元ボランティア団体への支援

2007年3月25日・能登半島地震で震度6強の被害を受けた穴水町より5名が訪問し、手作りのベビードレス型手拭タオル「ホットちゃん」400枚を届けて下さいました。また、旧七滝・高木仮設団地の談話室での交流会や、木倉・田代東部地区の地区社協の方々を対象にした勉強会にも参加頂きました。中には、ホットちゃんを手にした瞬間、込められたまごころを感じて涙を見せる方も。「過去の経験を聞くことで、改めて地域が頑張らなくてはと力が沸いた」というコメントが寄せられ、被災地と被災地を繋ぐ心の絆も深まりました。



町・社協・地元関係機関との情報共有

町の総務課・福祉課、地域支えあいセンター（社協）、熊本YMCA、熊本大学らと共に、2週間に1回程度の「支援担当者会議」を実施し、避難所や仮設住宅入居者の個別支援計画づくりや課題の共有、支援プログラムの検討を行っています。

RSY 御船事務所「かたらんな交流館」の運営

7月5日、RSYの御船事務所として、「かたらんな交流館」をオープンしました。「かたらんな」とは、地元の方言で、『一緒に』とか『語る』という意味合いがあります。この場所に多くの人々が集い、将来を話し合ったり、励ましあったり、ボランティアと町民が交流を深める場所となって欲しいと願いを込めました。スタッフ2名が常駐し、10月までに累計約400の方が来館し、まさに、被災者とボランティアの出会いや交流の場所となっています。



ボランティアバスの運行

「地震の影響で夏祭りも中止になってしまった。何も楽しめるものがない」「こんな時こそ元気の出ることをやりたい」という住民さんの声から、熊本YMCAや山間部の自治会の方々と準備を進めてきた夏祭りが20、21日に開催され、RSYで「夏祭り応援交流ボランティアバス」を運行し、30名のボランティアが活動しました。RSYは陶器市、輪投げ、釣りぼり、たませんブースの運営や、住民企画の流し素麺のサポート等を行い、どのブースも常に賑わっており、袋一杯の陶器を購入された方、たませんや素麺に舌鼓を打つ方、輪投げ、釣りぼりを楽しむ姿が多くみられました。



全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

支援の抜け、落ち、漏れ、ムラや重複を防ぎ、地域のニーズにあった支援活動を促進するため、熊本県内の支援団体・被災地全般の情報集約・調整機能を果たすべく年内まで活動予定。県総合福祉センター内に本部を構え(8月までは県庁内)、事務局はJVOAD(ピースボートボランティア・RSYを含む)と地元の間支援団体NPOくまもとが共同運営しています。週一回、支援団体を集めた「火の国会議」、行政・社協と「連携会議」を開催し、情報共有と次の支援に向けて調整を行っています。



災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

避難所から仮設住宅へ移転した一人ひとりに、暮らしの状況についてお聞きするコミュニケーションツールとして、「うるうるパック」をお届けしました。

RSY 大口町倉庫を拠点とし、名古屋のボランティアだけでなく、大口町で活動している団体「災害救援ボランティア」の協力もあり、延べ94名がパック化作業に参加。2950パックを作成し、御船町を始めとした、7市町村にお届けしました。



浄土真宗大谷派「光楽寺」様への宿泊

RSY 会員で真宗大谷派「光楽寺」ご住職、大津山様のご好意で、4月20日から5月1日まで、本堂を宿泊所として開放頂きました。幸い、ライフラインの復旧が早かったことから、お風呂の世話や、ゴミの処理、物資の保管・車の駐車スペースの提供など、一手に引き受けてくださり、安全で快適な宿泊空間が確保できました。ご住職、ご家族の協力なくして、これほど早く、現地での活動を展開することはできませんでした。この場をお借りして心からお礼申し上げます。5月4日、感謝の気持ちを込めて、ご住職と一緒にお寺の周辺地域の方々に炊き出しを振舞いました。



車中泊用簡易ベッド「ネムレール」開発者でもある大津山量住職

御船事務所・スタッフ紹介

4月からRSY御船事務所に、中西朝子と浦中武信（熊本県八代市在住）が常駐しています。毎日避難所や仮設住宅、山間部の集落を駆け回り、その時々住民の生の声に耳を傾け、ニーズ把握に努めています。また、RSYを介して支援の申し出を下された皆様には、活動先のマッチングや、被災者との交流の機会をサポートしています。明るく、熱意一杯の気持ちを地域の方々にも受け入れて頂き、今や食事会によべれたり、相談役にもなっています。（浦中は11月16日退職）





認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード
平成 28 年度熊本地震 被災者支援
活動中間報告書

2016 年 6 月 3 日第 1 版

2016 年 7 月 19 日第 2 版

2016 年 11 月 2 日第 3 版

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード (RSY)

(名古屋事務所)

〒461-0001

名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2 階

tel 052-253-7550 fax 052-253-7552

(御船事務所)

〒861-3206

熊本県上益城郡御船町辺田見 877-6 青雲市場内

かたらんな交流館 (RSY 御船事務所)

tel 090-5107-1135

e-mail info@rsy-nagoya.com

web http://rsy-nagoya.com/

twitter rescuestockyard

facebook rsy.nagoya